

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2774600551		
法人名	医療法人 千輝会		
事業所名	グループホーム神田イン国分		
所在地	大阪府柏原市片山町1-24		
自己評価作成日	平成 25年 4月 15日	評価結果市町村受理日	平成 25年 6月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2774600551-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2774600551-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 5月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に沿った、入居者のこれまでの人生を尊重し落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らしていただける様に買い物から食事作りや洗濯・掃除等出来る事は職員と一緒にしています。ホームはいつでも家族様やお友達、ご近所の方々が訪問して頂けるように、オープンにしていますので毎日のように訪問者があります。ボランティアの方々の訪問も毎月あり、最近ではご近所の住職様が入居者の方々の話し相手として月に2~3回程度お越しいただいています。夏には地元の老人会の方々のカラオケや河内音頭とりの方、秋祭りにはだんじりが春には地元の青年団の方々がたいこを演奏して下さいます。入居者の方々は地元とのつながりを肌感覚に感じて涙をながして喜ばれます。医師・訪問看護師等の医療従事者との連携は密にとれていて毎日のように訪問があり介護従事者は、安心してケアができていますし、家族様にも安心して頂いています。又地域の皆様に向けて認知症を理解して頂く為の地域勉強会も昨年10回目を迎え、地域にある国分病院の院長に講演をして頂く等々多くの方々に参加して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅医療に携わる医師が、認知症に対する家族のニーズに応えるべく開設したグループホームです。ホームは駅に近く、桜並木のある川沿いに立地し、環境に恵まれています。管理者や職員は、常に理念を基本として利用者一人ひとりの生活歴を大切に、利用者の喜ぶ姿・笑顔がみたくとの思いで暮らしを支えています。利用者・家族の希望によりホームで看取った利用者もあり、職員は「看取らせてもらってありがたい」と思えるようになっています。年2回開催する、認知症に関する地域勉強会も12回を迎え、地域の認知症への理解も深まってきました。「職員のチームワークと利用者の笑顔が私たちの自慢です」と話す職員が支える利用者の暮らしは、利用者が役割を持ち、活き活きた表情で、利用者同士が仲良く助け合う等、ほほえましい毎日の暮らしになっています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来る様に、私たちは温かく支援します」の理念を基本に管理者と職員は地域の中で生き生き過ごしていただけるように支援しています	「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来る様に、私たちは温かく支援します」の理念を掲げています。理念は、管理者と職員が日々のケアについて話し合う中で、常に原点として共有し、活かしています。また、理念は玄関に掲示し、家族や地域の方にも示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者の方々は地域の方なので、ご近所の方やお友達が訪ねて来られやすいように玄関には鍵をかけず、自由に出入りが出来お花や野菜をもってきて下さる方もいます。近くの神社を気候のいい日は入居者と一緒に掃除に出かけたりもします。保育所の園児の訪問や中学校の体験学習、入居者の作った雑巾を中学校へ寄付したりと地域での交流を大切にしています	地域との交流には積極的に取り組み、青年団の太鼓たたき、保育園児の訪問、中学生の体験学習、ボランティア等の訪問があり、楽しい利用者の暮らしになっています。認知症に関する地域勉強会も12回を迎え、参加者も増えて、地域の認知症に対する意識も変わってきました。利用者が外に出られていた時に、「出ているよ」と電話をかけてきてくれる人がいる等、地域に見守られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	毎年2回地域の人や福祉関係の方々に向けて認知症の人を理解して頂くための勉強会を柏原市の協力も得て行っています。又認知症家族介護の会では地域包括支援センターと協力しながら、家族様の相談にも乗っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、包括職員、民生委員、入居者の家族、その時々々の議題にそって医療関係、地域で関わりのある方々に参加して頂きホームでの取り組みや入居者の様子を報告し意見をいただき、サービスの向上に活かしています	運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、家族等のメンバーで、2カ月に1回開催しています。警察や消防署から参加してもらうこともあります。会議では、主にホームの状況、行事の内容、研修等の報告・説明を行い、参加者から評価や助言を得て、運営に活かしています。警察からの助言で、エスケープマニュアルを作成し、利用者の安全・安心に繋げることができています。	運営推進会議では、ホームからの報告だけではなく、自分たちの困っていること、悩みを打ち明ける等の場としても活用し、さらなるサービスの向上に活かされてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に勉強会では協力を得て地域自治会に回覧をして頂き多数の地域住民の方の参加があります。推進会議での貴重な意見交換やグループホームの職員間の交流にも力を入れて頂いています	市の担当者とは、何でも相談できる関係が築かれており、管理者は感謝しています。家族に解りやすい重要事項説明書を作成した時も、市の担当者には時間をかけて相談にのってもらいました。地域勉強会は、市の高齢介護課に後援をもらっています。介護相談員もホームの大切な応援団となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設以来玄関には鍵をかけず、心身共に拘束をしないケアを行っています。特に禁止するような言葉や行動をさえぎらないように入居者に寄り添ったケアを行っています。	ホームの玄関や門扉は日中、開錠しています。エレベーターも自由に使えます。『身体拘束をしないケア』について玄関に貼っており、職員は、「拘束をしないで、したいことをしてもらう生活」を自慢のひとつと考えて、利用者の意思を優先して支援しています。外出しようとする利用者には、そっと見守りながら、後をついて行きます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修に職員は参加を行い、内部研修として全職員に周知している。今年からは虐待防止委員会を作って定期的に話し合いを持つようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その人らしい生活をして頂く為の自立支援を学び常に心掛け、成年後見制度についても学習したり、相談に乗ったりしています。成年後見人を立てておられる方も入居されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時、契約書や重要事項説明書を説明するとき詳しく説明を行い理解・納得をして頂いて署名印鑑を得ています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者や家族が管理者や職員に意見や要望を気楽に伝えられるように、事あるごとに声かけを行い推進会議の参加や市の相談窓口、介護相談員などに意見や苦情を表すことができるように繰り返し伝えていきます	駅から近いこともあり、家族の訪問も多く、訪問時には利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いています。意見箱は玄関にかけています。家族からの要望は記録し、申し送りにより職員間で共有しています。入居時には、家族内の考えや意向を確認し、配慮しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が毎月の全体会議で、お互いの意見を出し合ってより良いケアが提供できるように話し合っている。5の委員会に職員は参加して委員会で決まった事柄も全職員で共有し反映させている（行事委員会・生活向上委員会・環境委員会・感染予防委員会・身体拘束防止委員会）	月に1回の全体会議と毎日の申し送り時に、職員の意見を聞いています。管理者は、日常的に職員が意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けています。また職員は、生き活きと楽しく働いています。緊急時に備えて、自宅待機の宿直を配置し、夜勤者が安心して業務ができるよう体制を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者であるドクターは各自が向上心を持って働けるように、研修や勉強会には積極的に参加を勧め努力や実績を理解し職場環境、条件の整備に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、機会あるごとに法人内外の研修を受ける機会を確保し、働きながら介護福祉士等の国家資格も習得するための便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、地域に向けて行う認知症の勉強会や相互訪問、実習生等同業者との交流する機会も多くサービスの向上に向けての取り組みに力を注いでいます		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、家族やケアマネから本人に関する情報を得、本人とも面談を行い安心して頂くための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前の段階から家族やケアマネとは何度も話し合い、本人も一緒に見学して頂き、安心してサービスを受けて頂けるように信頼関係を築いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に暮らしの状況や心身の状況を家族に、本人の気持ちと家族の要望等を書き入れて頂き、それに沿って他のサービス利用も含めサービス計画を作成し、家族に確認を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は運営理念を基本に、自立支援を念頭に置き、利用者の立場に立つケアを行い、職員は介護する立場ではなく共に生活する関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるを基本に、援助しているので、常に家族の気持ちや思いを伺いながら共に本人を支える関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や家族の命日には家族と墓参りに行かれる利用者、選挙に行ったり、お友達やご近所の方が訪ねてきたり、手紙が届いたり、出したりされておられる方が多数おられ、馴染みの関係を大切にしています	馴染みの友人・知人が訪問しています。行きつけの美容院や、墓参りに行く等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。また、入居後にできた新たな馴染みの関係も大切に、利用者同士の支え合いを尊重して見守っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームの自慢の1つでもある、職員が関わり合うのではなく、自然に利用者同士が関わり合いを持ち、支え合っておられる風景が毎日みられます、とっても微笑ましい風景です		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族からこれまでの関係を大切にしてくる電話をいただいたり、訪問を受けたりします。又必要に応じて相談や支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営理念を基本に職員一同本人の思いを大切に、本人本位のケアを行う為に気づきシートを活用し、生活歴を詳しく知り困難な場合はセンター方式の私の姿と気持ちシートを利用し検討している	入居時に、利用者や家族から生活歴や思いを聞きとり、アセスメントシートで把握しています。入居後の日々の関わりの中での気づきや発見は、「気づきシート」に記載し、職員間で共有して、ケアに活かしています。利用者が望むこと・望まないことの項目もあり、利用者の意向を尊重しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネから情報を得、生活歴や習慣を知る為にグループホーム協議会方式の暮らしの状況や心身の状況を詳しく伺いこれまでの生活を把握するように努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を基本に毎日の介護記録や気づきシートを通して、現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作るにあたり、家族の気持ち、職員の気づきや意見を聞いて作成している。また職員間で本人のニーズを共有、毎日の介護記録とニーズの中の項目チェックを通して、モニタリングを行っている	介護計画は6カ月に1回、定期的に見直しています。毎日の介護記録とニーズの中の項目チェックを通してモニタリングを行い、職員の気づきノートで把握した情報を追加して見直しを行い、状況に合わせた介護計画を作成しています。カンファレンスには家族も参加しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の介護記録や気づいたことは気づきシートに記録を行い、1日の終わりにはその日のニーズの項目チェックを行い、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の項目チェックでその時々生まれたニーズは、特記事項に記載して見直しが柔軟に行われるように取り組み、既存のサービスに捉われないようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気づきシートを活用して、1人ひとりの自立支援を念頭に、地域の中で自分らしく楽しみながら、豊かな生活が送れるように支援している。（地域で大切に育てられている秋祭りのだんじりや保育園児の訪問、老人会の慰問など）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医や受診希望を確認し、適切な医療が受けられるように、希望される医療機関とは連携を密にとれるように協力を依頼し、情報の交換や受診に際し協力をを行っている。	受診は、本人や家族の希望で入居以前からかかりつけの医療機関にかかっている利用者もいます。訪問看護師は毎日来訪し、協力医療機関の医師は必要時に往診しています。身寄りのない利用者については、後見人と相談しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携をとっている。介護職員は日常の関わりの中での気づきや変化を看護師に報告を行い、密に連携を取り合っている。利用者に安心して過ごして頂く様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入退院される際は訪問看護師や主治医と連携をとり、安心して治療できるように、病院関係者とも情報交換や相談に努めています。また運営推進会議には、病院関係者の参加もあり関係作りも積極的に行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制をとって、入居時終末期のあり方、重度化した場合や看取りについて事業所で出来ること等を十分に説明を行い「看取りの指針」に同意を得、署名捺印を得ている。訪問看護師や主治医など医療関係者とも連携がとれている</p>	<p>重度化した場合や終末期のありかたについては、家族と「重度化・看取りに関する意向確認書」を交わしています。終末期ケアについての手順を作成したことで、職員は安心してケアにあたることができています。また、医療連携体制を整えており、協力医療機関の医師には夜中でも対応してもらいます。看取りの体験の中で、管理者や職員は、「看取らせてもらってありがとう」「私の時でよかった」と思えるようになりました。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている</p>	<p>利用者の急変時や事故発生に備えて、定期的に全職員はロールプレイや救命講習、訪問看護師との勉強会などで実践力を身につけている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回消防署の協力を得て入居者と職員は、避難訓練を行っています。推進会議等を通じて地域の皆様や家族の協力をお願いしています。今年にはスプリンクラーや火災通報装置が設置されました。	年に2回消防署と連携した防災避難訓練を実施しています。2階の利用者は階段を下りるのに時間がかかるため、まずはベランダに出て、消防署からはしご車で救出することも申し合わせています。非常口はいつでも開けられるようになっています。また、消火器・スプリンクラー・火災通報装置を設置し、利用者の安全確保に努めています。非常時の水や食料品などの備蓄もしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念にも謳っているように、常に1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような対応がなされていないか、毎月の全体会議で確認している	契約書の中で「利用者の権利について」を明記しています。利用者を個人として尊重し、プライバシーを保ち、尊厳を維持することを約束しています。排泄介助時のプライバシーへの配慮等、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、具体的に職員間で確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択出来る場面や事柄を多く作っている。たとえば朝の着替えや入浴後の衣服、食事の好き嫌い、飲み物も選択できるようにしている。外出希望にも自由に出て頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念でも謳っているように、自分らしく暮らして頂く様に、職員は入居者の思いを大切にしています。その日によって1日の過ごし方も様々です。編み物をする人、入浴を希望する人、外出を希望する人等その思いに沿った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時の気分によって、何度も洋服を着替えられたり、お化粧をされたりしておられる方もいらっしゃいます、希望があれば一緒に美容院や化粧品を買いに行ったりもします		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や入居者は、一緒に食材のチラシを見たり献立を考えたりします。調理も一緒にして作る楽しみ、匂って唾液を促し、一緒に調理をすることで与えられるだけの生活ではなく作る喜びも感じ取っておられます、後片付けも進んでされ自分の出来ることをする雰囲気です	ホームでは、朝昼夕の食事からおやつまで手作りしています。台所は居間兼食堂と対面キッチンになっており、食事の準備の音や匂いは家庭的な雰囲気を作り高め、利用者は食事を楽しみに待っています。献立、下ごしらえ、調理、片付け等利用者ができる場所は職員と一緒にしています。庭で育てた野菜も食材として活用しています。外食も楽しみのひとつです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	1人ひとりの食事摂取量を毎日毎回記 入し栄養バランスや水分量も確保でき るように支援している。特記事項にそ の時々気づき点等も記載してニーズ の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりの口腔状態を把握 し、口腔ケアを行っている。必要に応じ て歯科衛生士に来てもらい職員との連 携も取れている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄状態を把握するために正確に記 録を取り、1人ひとり排泄パターンを知 り、失禁を防ぐように早めのさり気ない 誘導を行うなど、布パン対応で排泄の 自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把 握しています。トイレ誘導は、プライバ シーにも配慮し、さりげない声かけで 行っています。オムツ類の使用は少な くして、布パンツで過ごせるように配慮 しています。排泄の自立支援に向けた 個別支援を実践しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便に向け水分摂取を促 し、排泄時腹圧をかける、運動をする 等個々に応じた予防を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日健康チェックを行った際、本人に入浴を促し、曜日や時間を決めずに本人の希望する湯加減や時にはゆず湯、菖蒲湯等季節感を味わえて楽しく入浴をして頂くような支援をしています	利用者が毎日入浴できる体制になっており、入浴したいときに入浴できるよう支援しています。入浴を好まれない場合でも、時間をかけて丁寧な声かけを行い、週3回程度は入浴できるように配慮しています。ゆず湯、菖蒲湯など、季節に合わせたお湯で入浴が楽しくなるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、和室に布団を敷いたり、居室のベットを布団に変えたりして安心して休息したり、眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員は利用者の症状の変化を感じ取り、医師、訪問看護師、薬剤師と連携を取り合い、薬についてのアドバイスを受け服薬の支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との日々の会話や家族の聞き取りからその方の生活歴を知り、気づきシートに記入、嗜好品、趣味、興味のあることなどを事あるごとに活かせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で情報を集め、家族に本人の思いを話してみ、家族が叶えられることは家族が、職員ができることは職員が本人の希望にそえるように努めている。特に入居直後の自宅に帰りたい気持ちにも一緒に自宅まで外出支援を行います。買い物や散歩近くの神社の掃除などは、入居者と日常的に出かけ、普段あまりいけないところには行事委員会で検討して梅、桜、紅葉、花火や外食、足湯などの外出支援をしています	ホーム前には川沿いに桜並木があり、橋からは、川にいる魚や野鳥を見ることができ、利用者は自由に外へ出て四季を楽しんでいます。日常的には買物や散歩など、外出支援をしています。行事委員会では、年間を通じて、初詣、梅や桜の花見、外食、作品展見学、ピクニック、足湯等、計画を立てて利用者の希望に添った外出支援をしています。利用者の姿や笑顔を写真に残して記録し、ホーム内に掲示したり、家族へ送付したりしています。家族とお墓参りや外食、美容院、病院等へ出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望されれば付き添って支払いもして頂き、金銭管理のできない方は、職員が確認を行いつつ支払えるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	日常的に電話の使用の支援をしています。手紙は勿論暑中見舞いや年賀状などは普段手紙を書かない方にさりげなく声かけを行い早めに出すように支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間には家庭で使われているものがあり、家庭的な雰囲気の中過ごしておられる。カーテンやエアコン、気候のいい日は窓を大きくあけ自然を取り入れ自分たちの作った詩やちぎり絵、書道、普段過ごしている様子が映っている写真などを掲示し、庭には季節の花や野菜を栽培して楽しんでいきます	玄関には、ゆったりと座れる椅子や植木鉢があり、居間兼食堂の大きな窓からは、外の桜並木や川にかかる橋が見え、道行く人と挨拶もできます。畳の部屋でゆったりとくつろぐこともできます。利用者や家族が確認しやすい箇所に、職員の顔写真を勤務時間帯毎に掲載しており、職員の勤務体制がわかるように工夫しています。壁には、利用者の作品や笑顔の写真が飾られています。1階と2階とは別玄関になっており、外のエレベーターで行き来ができます。庭には、季節の花が咲き、植木鉢でトマト・きゅうり・ピーマン等を育てています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関、庭などにソファや椅子等を置いています。気の合った利用者同士思い思いに過ごしたり、お互いに居室を訪問して楽しそうに話しておられる様子など数多く見受けられます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人や家族に相談して自宅 で使っていたものや馴染みのものを持 って来ていただくように話し合い、鏡台 や時計、タンス等を置いておられ特に 写真などは見て落ち着かれることがあ ります	居室のドアには、手作りの飾り表札や 小さなぬいぐるみ、短冊等をかけて、 居室がわかりやすいよう工夫していま す。本人の馴染みのタンスや家具、家 族の写真等を配置し、利用者が居心 地良く過ごせるような部屋にしていま す。利用者が元気な時に愛用した麦わ ら帽子を居室に飾り、思い出を大切に する配慮等、職員は、利用者一人ひと りの人生に思いを馳せる支援を実践し ています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環 境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工 夫している	入居者が安全に自立した生活ができ るように、台所は自由に入出りができ 調理を一緒にしたり、ほうきを目につく ところに置いてあるので、気がむけば ほうきで掃いておられたりしておられ る。ホーム内は手すりをつけ段差をなく すなど安全に過ごせるようにしていま す		